

講義名	流通企業経営論				授業形態	
担当教員	新 雅史	開講期・曜日・時限		後期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
流通は、都市構造、交通システム、消費者の生活意識など、社会環境に大きく左右される産業です。そして流通企業も、こうした社会環境の変化にあわせて、生き残りをかけて業態を更新しています。本講義では、食構造、グローバル化、情報化といった幾つかの軸を立てて、流通企業の行動や戦略を、日本社会の変容とあわせつつ考えます。また、海外の流通企業の活動についても触れます。						
到達目標						
(1) 流通企業の事例を通じて流通業界及び関連業界の動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけることができるようになる。 (2) 流通企業の事例を学ぶことで流通固有の性質に起因するマネジメントやマーケティング上の課題を理解し、これからの流通業界の状況を構想する力を身につけることができるようになる。 (3) 国際化・情報化・高齢化といった現代社会の変容に対する流通企業の先進事例を通して、今後の社会変化に対して柔軟に対応する力を身につけることができるようになる。 (4) 流通企業のマネジメントやマーケティングの概念や理論についての理解をベースに、社会システムのなかの流通企業の役割について深い関心を持つことができるようになる。						
提出課題						
レスポンス上の課題および期末レポート（もしくは期末試験）						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
各回で課すレスポンス上の課題は、講義中に総括、講評をおこないます。						
評価の基準						
各回で課すレスポンスの提出を50%、期末レポート（もしくは期末試験）を50%にて、学修の到達度を評価します。						
履修にあたっての注意・助言他						
流通企業の経営に関する事柄について、事前に調べておくこと。例えば、流通企業の経営者を取り上げたニュースや書籍を読んでおくといでしょう。						
教科書						
使用しない。						
参考図書						

その他		
講義連絡を通して資料を配付します。 基本的な参考文献は以下の通り。それ以外も適宜紹介します。 矢作敏行、1996『現代流通 理論とケースで学ぶ』有斐閣 矢作敏行編、2011『日本の優秀小売業の底力』日本経済新聞社 など		
授業計画		
1. ガイダンス：流通企業経営論の意義 2. 卸売業と小売業の現況 3. メーカーによる流通支配／流通系列化：化粧品業界を事例に学ぶ 4. メーカーによる流通支配への対抗：量販店を事例に学ぶ 5. 生鮮品の流通構造の変化：スーパーマーケットを事例に学ぶ 6. メーカー主導型流通企業の展開：自動車業界を事例に学ぶ 7. メーカー主導型流通企業の展開：自動車業界を事例に学ぶ 8. 郊外部における流通企業の展開：ファミリーレストランを事例に学ぶ 9. 日本型コンビニエンスストアはいかに生まれたか 10. 小売業の国際化：ウォルマートはいかに小売業の巨人になったか 11. 文化商品を取り扱う流通企業：TSUTAYAと茑屋書店 12. 食消費の構造変容と小売業：オイシックスなどの事例から考える 13. 製造・卸売・小売の融合：ユニクロの事例から考える 14. 情報化社会における流通：楽天の事例から考える 15. まとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
○	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
* 各回のテーマに沿った資料の収集および講義資料の確認：各2時間×14回=28時間 * 各回の講義内容の復習：各2時間×15回=30時間 * 期末レポート（試験）の準備：2時間 合計 60時間		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
マーケティングや流通業界の動向を踏まえながら、流通企業がいかによりマーケティングやブランド戦略をおこなっているかを、具体的に学修できる。 ライフスタイルの変化にともなう消費者ニーズの多様化に対して、先進的な流通企業がいかによりマーケティング活動やブランド構築を展開したかを具体的に理解し、変容する社会環境のなかで自組織の強みをリーダーシップをもって消費者に訴求できる能力を身につけることができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
レスポンスのアンケート機能を用いるなど、ICTツールによる双方向性を意識した授業を予定している。		
実務経験の有無及び活用		
「実務経験あり」。商店街における商業支援から得た現場レベルの情報を適宜紹介する。		
備考		